

国際教養学部国際教養学科

教育課程編成・実施の方針

国際教養学部国際教養学科では、学位授与の方針で示した「学修成果」を実現するため、以下に示す教育課程を編成し、実施していくこととします。

〈カリキュラムの構成〉

本学部のカリキュラムは、全学共通科目と学部固有科目から成り立っています。全学共通科目 36 単位、学部固有科目 78 単位に加えて、履修者の関心と目標に応じて全学共通科目と学部固有科目の両者から自由に選択できるフロート単位が 10 単位設けられ、合計 124 単位が卒業所要単位となっています。

【全学共通科目の目標】

全学共通科目では、幅広い視野と多面的な思考力を養い、専門分野にとらわれない総合的な知を身につけることを目指しています。科目の構成については〈全学共通科目の教育課程編成の方針〉を参照のこと。

【学部固有科目の特色】

学部固有科目のカリキュラムの特色は、一つ目には、入学時にフランス語・スペイン語・ドイツ語・ロシア語・中国語の 5 言語の中から 1 言語を選択し、英語とあわせ、集中的に学修することにあります。二つ目に、4つの分野（言語文化、歴史文化、思想文化、国際社会）を柱としていることにあります。さらに、この 4 分野にわたって設けられた多様な科目の核として演習を配置しています。演習は、2年次から4年次まで必修とし、4年次には卒業研究を完成させることが求められており、それを通して国際的教養人にふさわしい情報収集力、分析力、思考力、発信力を養成します。

【科目区分】

学部固有科目の区分の仕方は、二つあります。一つ目は段階的な区分で、基礎科目・基幹科目・展開科目と段階的に科目を配置しています。二つ目の区分は分野に基づくもので、言語文化系科目群、歴史文化系科目群、思想文化系科目群、国際社会系科目群の4つの科目群から成り立っています。これら学部固有科目全体の中心に位置するのが演習科目です。

なお展開科目には、キャリア形成支援科目、海外留学に関わる科目も含まれています。

以上を図で示すと次のようになります。

段階的科目区分

	1年	2年	3年	4年
選択言語科目	基礎科目			
			基幹科目	
			展開科目	
英語科目	基礎科目			
		基幹科目		
			展開科目	
講義科目	基礎科目			
		基幹科目		
			展開科目	
その他の科目	展開科目(キャリア形成支援科目、海外留学に関わる科目)			
演習科目		演習科目		

分野別科目区分

言語文化系科目群	歴史文化系科目群	思想文化系科目群	国際社会系科目群	その他の科目
演習科目				

【特徴的な科目・学修方法・学修過程】

- ① 5つの選択言語の運用能力を確実なものとするため、「発音」「会話」「語彙」「文法」「情報処理」「講読」「作文」「語学検定対策」などのクラスにおいて、段階的に学修をすすめます。コミュニケーションに重点を置いたクラスでは、少人数による双方向的な授業運営を行い、特に「発音」クラスは履修者数の上限（15名以内）を定めています。
- ② 英語の高度な運用能力を確実なものとするため、イングリッシュ・ワークショップ（リスニングとスピーキングに重点を置いた授業）、イングリッシュ・スタディーズ（リーディングとライティングに重点を置いた授業）の各クラスを少人数編成にしています（履修者数 15名程度）。英語によるリサーチと発表を通じて、高度な内容を英語で発信する能力を磨きます。
- ③ 5つの選択言語の運用能力を向上させ、各文化圏の理解を実地で深めるための機会として、2年次（または3年次）秋学期に各言語圏の大学への留学プログラムを設けています。この留学プログラムは「海外課題研究」という科目として単位認定されます。この科目の履修を強く推奨しています。
- ④ 1年次において国際教養学部での学修の全体像を見渡し、以後の学修の方向づけができるよう、「国際教養学入門A(言語)・B(歴史)・C(思想)・D(国際社会)」を設け、4科目すべてを必修としています。
- ⑤ 国際教養学部における学修の成果を踏まえ、的確に自らの適性を把握し、卒業後のキャリアを展望させることを目的とした「キャリア・ディベロップメント」という科目を3年次春学期に配置しています。
- ⑥ 2年次から4年次までの学修の核となる演習では、4年次秋学期に「卒業研究」を完成させることを目標に、各自がテーマを定め、調査、発表、論文執筆の実際を学びます。その際、少人数クラスにおいて、教員の綿密な指導のもと、各自が主体的に学修に取り組み、積極的に議論に参加することが求められます。
- ⑦ 演習は、言語文化系、歴史文化系、思想文化系、国際社会系の4つの系にわたってクラスを開設しており、履修者は2年次以降、いずれかの系のクラスに属することで、それぞれの系の科目を中核に据えて学部全体のカリキュラムを体系的に学修することができます。
- ⑧ 語学科目の学修成果は、授業への参加度、課題の成果、口頭・筆記の試験をもとに総合的に評価します。講義科目の学修成果は、レポート、試験、又は授業への参加度で評価します。演習科目においては、授業への参加度、口頭発表、レポートを総合して学修成果を評価しますが、演習VIにおいては「卒業研究」の成果の比重が大きくなります。